

## 不凍港「大東港」が問題になるまで

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 1. 緒言         | 2. 「大東港の名稱と其の位置」      |
| 3. 東邊道開發と安義兩市 | 4. 多獅島築港              |
| 5. 安東港修築と郡邑計畫 | 6. 綜合工業地帯としての「大東港」の出現 |
| 7. 計畫の輪廓      | 8. 計畫中央に移る            |
| 9. 不凍港「大東港」   | 10. 本港と大連港及多獅島との關係    |
| 11. 結論        |                       |

### 1. 緒言

大連港さへ厚さ2寸の結氷を見た去る2月7日(庚徳6年)の嚴寒期に、直木交通部技監の乗船せる滿鐵奉天丸が無事入港、而も簡単に接岸上陸が行はれたことに依つて、俄然識者の注目の的となつた鴨綠江河口の大東港の築港並に之に伴ふ一大臨港工業地帯造成計畫案の内容に關しては今日尙未決定の部分多いのみならず各ねばならない點もあるので、此處では今日迄の經過少共本港の將來に興味を有の事業計畫に直接間接關與に供することに致し度い。

### 2. 「大東港」の

大東港と云ふ名稱は最近に於て決定された本港の名稱と言ふと趙氏溝港と呼ぶ方居る。即ち目下築港豫定地東市の中心より西南方直線子嚙線に依る時は約40軒の



2月6日零下20度大連港の結氷

が鴨綠江の河口に向つて放出されて居り、其の合流點附近に存在する同名の小部落の上下流約12軒の江岸線に沿ふ地域を指して居るものである。趙氏溝部落の上流6軒の處に掛網溝部落があり、下

種の事情で其の發表を憚ら  
詳しい事は後日に譲るとし  
と簡単な輪廓を述べて、多  
せられる、方々並に今後本港  
される人々に對し其の参考

### 名稱と其の位置

中央の企畫委員會の幹事會  
稱であるが、現在の地名か  
が、其の位置を明確にして  
と目されて居る地點は、安  
距離で30軒、國道安東一城  
處に、趙氏溝と言ふ小河川

流5軒の地點に大東溝と云ふ人口約7,000の古い港町が存在して居る。此の大東溝の町は日露戦争以前は人口數萬を算し、支那本國と滿洲を結ぶ屈指の貿易港で、相當殷盛を極め現在の安東などは當時單なる一寒村に過ぎなかつたと云ふことである。そんな譯で大東溝と云ふ名稱は滿人間には相當著名であり親しみ易い名稱であるので、溝を港に置き換へ大東港と決定されたものであらうが、將來築港と都市建設が完成されれば、行政的に現在の安東市に合併されるか或は又新安東と呼ばれるに至るのではなからうかと考へられる。

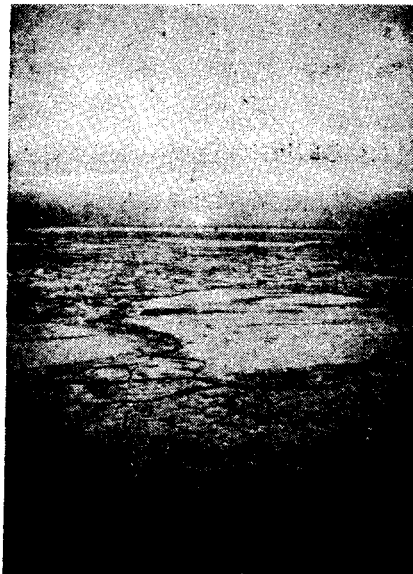
更に鴨綠江河口港とも言はれて居る。是は其の對岸にある朝鮮側の多獅島港と同時に考へる場合總稱して言はれるもので、將來鮮滿一如の觀點より此の兩港の運営を最も合理的に行はんとする場合を豫想して斯く稱へられて居るものである。こんな風に本港の名稱は趙氏溝、大東溝、鴨綠江河口安東等各種に稱へられて居るが、場所は同一のものであり企畫委員會で「大東港」と決定された以上今後は専ら是が使用され

る事とならう。

### 3. 東邊道開發

安東は滿洲事變の思想的洲國が出来て見ると暫くは集中されて政治的にも經濟如くに放棄されて居たが、開發が世論に上つて來たに要視されて來た。尤も在安年前より東邊道の資源開發居た人士もあつた様であるして居なかつた。唯開發の道を建設することに關して

工會議所並に有力者が一體しては相當熱烈な運動を繼續して居た様である。それとても建國當初は何等反響がなかつたが、康徳4年8月裏面的にはどうあらうと表面的には殆ど突然の様に、該鐵道が國有として建設されることが發表され直に起工されるに至つたので、関係者一同は欣喜雀躍したものである。續いて9月には安東の上流僅か80軒の地點に於て出力70萬「キロワット」と云ふ殆ど世界的と言つてもいい鴨綠江水力の水豊ダムの建設に着手された。同時に大粟子溝、老嶺、八道江、煙洞溝等の鐵、石炭の調査の結果が巷間に流布されるに至つて、東邊道の持つ重工業資源の豊富さに今更乍ら世人は驚嘆したが、從來匪團の根據地として、暗黒の名に依つて呼ばれて居た東邊道が、此處に始めて産業開發の波に乗つて颯爽として時代の脚光を浴びるに至つたのである。當時是等の地下資源埋藏地帯は安東省の管内であつて、筆者等は道路建設の爲到る處を踏査して鐵鑛や石炭が、道路バラスに代



2月7日午前7時—黃海真中全面結氷の海上に昇る旭日

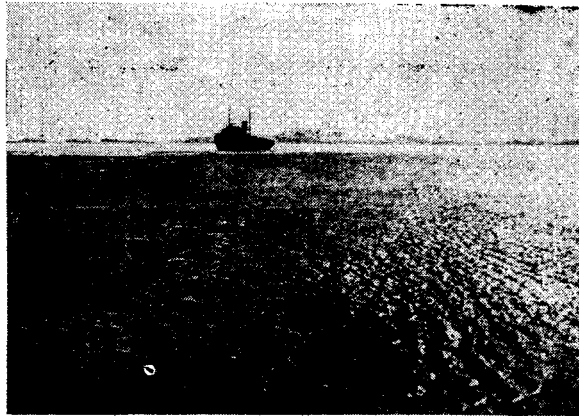
### と安義兩市

發祥地であつたに拘らず滿總ての工作の重點が北滿に的にも殆ど置き忘れたかの康徳2、3年頃より東邊道の伴つて、次第に其存在が重の先覺者の中には既に10數と鴨綠江水力發電を稱へてが時勢が未だそこまで到達先驅として、東邊道縦貫鐵は、安東、新義州兩市の商になつて、其の實現に對し

用されて居る現場を目撃して居たから、直に其の確實性を識識するを得た。斯の如く東遼道の情勢が180度の轉換を示せるに伴ふて、古くから此處を經濟上其の背後地として鴨綠江を狭んで伸よく發達して來た安義兩都市も、從來通り木材や穀類に目標を置いての將來の發展性に大した期待をかけ難き状態に立ち至つたことは當然である。

#### 4. 多 獅 島 築 港

此の新情勢に對應するには、鮮側新義州に一日の長があつた。即ち多獅島の錨地を持つて居る事である。多獅島とは新義州の南方約40軒の距離にある廊串岬岬の突端3軒の地點に存在する小島で、此邊は鴨綠江は全く外海に流れ出た處である。此の小島附近には水深10米以上の錨地が存在し日清、日露兩役にも此の錨地を利用せられたと云ふ、古い歴史を持ち今日迄殆ど水深の變化が認められない西鮮國境にして貴重なる存在で、所謂昭和製鋼所設置時滿鐵總裁山本條太此の附近に製鋼所設仙石總裁時代には日大家が親しく現地をして報告されたこととして調査班に加はに依ても明かである



2月7日午前11時奉天丸氷片なき大東港口に入る……前方新島列島

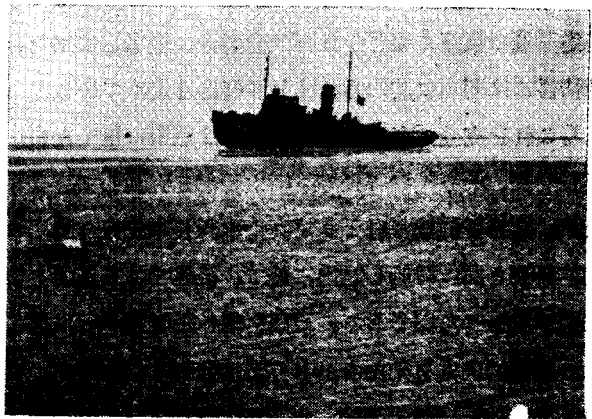
於ける唯一の港津とある。多獅島が世間には、大正年間後半の問題からである。當郎氏の意見に依つて立の計畫が樹てられ本の著名なる港灣の視察し、築港適地とは其節七博士の一人られた直木技監の言其の後情勢の變化で

問題は解消したが、引き続き朝鮮總督府並に滿鐵に於て調査を進め、風向、風速、波浪、潮流、流水、結氷等基本調査は一通り完備し不凍港として通つて居る。斯る經緯を持つて居る多獅島が、東遼道開發の氣運に乗じ今日再び檣舞台に登場して來た譯である。而も東遼道縱貫鐵道期成同盟會の陳情書には明かに其の吞吐港を多獅島と定めて居る點より推して、當局者が該鐵道建設計畫を樹てる時これを充分に考慮に加へたことは想像に難くない。康徳4年5月松岡滿鐵總裁は佐藤理事、田邊建設局長、桑原築港課長等技術主腦部を引具して、安東より船を以て下航し親しく現地を視察されたが、其節朝鮮總督府より榛葉土木課長來安自ら説明の任に當られた。當時筆者は安東航政局島崎總務科長と共に同船し船内に於て、後述する五道溝を含む三道浪頭港修築計畫に就て述べたが餘り反響が無かつた様である。視察を終へた總裁一行は其の儘京城に赴かれ南總督に會見されたが、これで最後の決定を見たのかどうかは窺知し得ないが、其の翌年即ち康徳5年(昭和13年)4月より總工費1,300萬圓、6箇年繼續、年10萬噸吞吐能力の築港工事に着手されたのである。同時に新義州、多獅島間38軒の多獅島鐵道の建設が始められ、本年(康徳6年)4月には開通の豫定である。斯くして

多獅島港は名實共に東遼道開發の吞吐港として、華かな未來を約束されるべく準備萬端成つたのである。

### 5. 安東港修築と都邑計畫

多獅島港の持つ水深と不凍は、安東港の現状では絶體に望み得られない。而も一日先にスタートした多獅島港を東遼道の吞吐港として活躍させることは敢て鮮滿一如の精神より論じなくとも誰も異存のない處である。然し折角安東と云ふ豊富低廉な勞力資源と格恰な工場適地があり乍ら、敢て通關の手數と運輸の不便とを忍んで、東遼道の鑛山資源を粗鑛の儘多獅島に送り込む必要があらうか？出来るならば鴨綠江を渡る前に之に適當なる加工を施し生産コストの低減を計り、然る後多獅島港に送り出し得るならば其利得蓋し莫大なものがあらう。苟くも日滿經濟不可分の何たるかを諒解する者ならば誰しも此點に關しては異存のある筈がない。此の國策の線に沿ゆ大方策に従ひ、政府は建國當初既に安東を奉天、錦州、鞍山、本溪湖と共に南滿に於ける重工業都市として豫定して居た。其の道に與る者として筆者等は康德元年より錦州、本溪湖と共に安東の都邑計畫を樹て、工業都市としての一大飛躍を期待したのであるが、前掲兩都邑が既に數年前より躍進し始めたに拘らず尙安東は舊態依然たるものがあつた。即ち康德元年夏水害に依り鎮安橋が流出し、附屬地水源池堰堤が崩壊せる直後、舊滿洲街に接屬せる東坎子に重點を置く安東都邑計畫の最初の案を樹て、其後康德4年附屬地行政權移讓に對應して、新しく安東市街行政區域に編入せられたる三道浪頭を含む工場立地に遺憾なき膨大な計畫を樹立し經濟部當局に安東の發長性を力説し、事業資金30萬圓の融資を受け、之を以て迅速なる事業の遂行を計らんとしたが、時機未だ至らず市民の熱誠なる援助があつたに拘らず何一つ工場誘致に具體化せるものなく無爲にして次年度を迎へるに至つたのである。其原因は種々考へられるが、折角の港が利用價值稀薄であると云ふことを重大なる理由の一つとして擧げるには誰しも異存のない處であらうと思ふ。元來安東港は其の名が相當世間的である様に、古くは航路の水深も適當に維持され1,000噸近くの船舶が現在の鐵道橋の近く迄遡航して來たものらしいが、年々の鴨綠江上流の木材伐採に依り土砂の流出多く、其の堆積の爲水路は深さを失ひ近年は安東下流12軒の三道浪頭迄辛ふじて1,500噸級の船舶が上つて來て、此處より舳荷役を利用するより以外途がない状態にまで變化して來たるである。建國後港灣行政を担当せる交通部當局に於ても此の現象を憂へ、安東港更生の爲種々



2月7日正午奉天丸大東港に投錨

方策を研究して居た様であるが、康徳4年7月民生部土木局を合併し土木行政の統一なるや、更に積極的に其の調査、研究を進め一つの成案を得たのである。それは柳草島の北端を洗堰に依り新義州側に結び、平水を滿洲側に一定し五道溝並に三道浪頭の水深の維持を計らんとするものであつた。偶々同年9月2日鴨綠江水力に對する認可條件を審議する爲、平安北道朔州に於て鴨綠江鮮滿共同技術委員會が開催された折、滿洲國側より本案に對し同意を求めたのであるが朝鮮側では洪水時に於ける三橋川合流點附近の影響を懸念し賛同を控へたので、一先づ内務省土木試験所に依り其の影響を研究すると云ふことで保留されるに至つた。本委員會には平井出（交通部次長）、大竹（總督府内務局長）兩委員初め直木、原口、榛葉、本間各委員等鮮滿の最高技術官が全部出席されて居た。斯くの如く安東並に安東港更生の爲に當事者及市民有志はあらゆる角度から其方策を練つて居たのであるが、時に利非ず其の計畫は何等具體化せず徒らに時日の経過を待つのみであつたのである。

### 6. 綜合工業地帯としての「大東港」の出現

康徳4年10月頃であつたと思ふ。當時關東軍にあつて經濟、産業部門を担当して居られた國分參謀(現陸軍省高級副官、國分大佐)が來安せられて、別宮省次長(現奉天省次長)、多田滿鐵地方事務所長(現安東市長)等があつたが、其の席鴨綠江水力等の起工業5箇年計畫完成の代の出現であり、安東を力説され是が當な港灣を見出すこあつた。其の席に列にそれより數箇月前で鴨綠江河口より莊調査に出た調査班の



2月8日午後1時奉天丸大東港築港豫定地接岸

と懇談せられたこと上東遼道縦貫鐵道、經過を説明され、産時期は即ち東遼道時東の黄金時代である非でも滿洲國側に適とを要請された事がなつて居た筆者は既交通部、省公署共同河海岸迄、港灣適地

「遠淺にて適地なし」

との報告を受けて居たので沈黙の外なかつた。而も當時莊河縣當局より、縣内打拉腰子を不凍港として修築の要望があつたので調査した處、遠淺で漁港以上には計畫し難きを知つて自信を失なて居た時であるから尙更である。越えて康徳5年2月市當局者と共に、安東都邑計畫の變更説明の爲上京した折、偶々滿洲輕金屬の工場を安東に新設の計畫あるを耳にし、産業部に岸次長を訪ねた。一應我々の説明を聴取した後岸次長から「輕金屬の豫定はある。安東の將來は實に洋々たるものであるから、もつと廣い地域を考へ而も工場地帯には是非船をつける事を考究して貰ひ度い」との要望があつた。此處に溯らずも滿洲國産業部門擔當の最高峰たる兩當事者の言の符合して居ることを知つた筆

者は、工業地帯の設定と港灣の關聯性の要重さを今更の如く深く腦裡に刻まれたのである。成程今日の日本の主要なる工業地帯の状態を見ても、京濱地方と謂はず阪神地方と謂はず或は北九州と謂はず其の何れも水路を極度に利用して居るのみならず、其の工業生産額年數十億に達せるを想到せば、工場立地條件に於ける港灣の存在の重要性は餘りにも明瞭である。即ち今此處に東邊道の無限の資源を開發するに當つて、これが工場立地の適正を得て假りに生産コスト10%の遞減を計り得るならば、經濟上密接不可分の關係にある日滿兩國は、其處に年々數千萬圓に及ぶ莫大な目に見えざる利得を擧げ得るに非ずや。斯く考へ來たりたる時、我々の國策に順應する奉公の念は、安東に對する認識に正に觀念上一大飛躍を遂げせしむるに至つたのである。従前我々は餘りにも安東は現安東と言ふ觀念に捉はれ過ぎて居た。目を轉すれば更に鴨綠江下流に廣漠たる平原があるではないか。此處こそ正に來るべき東邊道時代に對應すべき最良の條件を具備したる工場立地ではないか。其處でこれ迄の調査資料を整備し最も懸念されて居た水路に就て研究して見ると、趙氏溝の鴨綠江に於ける合流點附近は水深7米を有し、大正9年以來變化なきことが判明した。正確を期する意味で航運行政の現地担任者水原航務局長に協議の上「パイロット」の意見を徵すると、該位置には現在3,000噸級の船舶3隻碇泊可能なバースが存在すると云ふことである。其の後行はれた航務局の深淺測量圖にもこれは明瞭に出て居る。水路が大丈夫ならばあとは懸念はない。東邊道資源の運輸経路は確立して居る。鴨綠江水力の水壙ダムは經濟距離圏内にある。工業用水には自信がある。土地は何億萬平米迄も擴張出来る廣大さで、而も地價低廉の蘆草地を主として居る。附近は人口相當稠密な上に近くに安義兩市を控えて居るが故勞力資源は無盡藏である。此處こそ正に滿洲國唯一の近代的綜合工業地帯造成の適地であると云ふも強ち過言ではあるまい。斯くして「大東港」臨港工業地帯出現に關し、其の計畫の第一歩が踏み出されたのである。

## 7. 計畫の輪廓

築港豫定地附近は正に鴨綠江が外海に流れ出でんとする處で、河幅も6.7軒に及ぶが、河心にデルタに依り形成された數箇の島があり、水路を東西の兩水道に分割して居る。今我々の利用せんとするのは、其の西水道にして對岸は鮮側に屬する信個島(新坪島)に對し、其の間水路の幅員は800乃至1,200米ある。現在水深の最も深いのは、稍其の中心地に當る趙氏溝部落の上下流約5軒である。此邊は干滿の差最大で6米40最小で4米80であつて、最深部は丁度くの字の曲り角に當つて居る爲、上下流水共によく岸を洗ひ水深が維持されて居るものらしい。河床は少量の砂混りの泥土で深さ20米迄同様であるから浚渫は容易である。陸地も同様の土質である。建造物の基礎には相當苦勞するかも知れないが江岸はどうせ低地であるから、浚渫土を利用して平均約1米50盛土する必要あれば、施工次第では相當の地耐力を得ることと思ふ。恒風は北北又は北西である。偶々築港豫定地の南に當る河口附近に薪島列島が點在し外海より吹く風は遮避され港内は常に平穩である。背後地は遙かに鳳凰山、五龍山並に三角地帯の連山を霞の中に望見し得る、一望千里の平原であり江岸附近の蘆

草地の外概ね水田、旱田である。計畫は此の地域をトして先づ5,000萬平米の綜合臨港工業地帯を造ると云ふのである。勿論將來必要に應じては何處迄も擴張出来る餘地がある。計畫理由は簡單で



2月8日午後1時半奉天丸船上に於ける直木技監を中心とし親僚團の萬感

ある。即ち無盡藏の地下埋藏資源と豊富低廉なる鴨綠江水力の電力を、船も入り工業用水も潤澤な、地價の廉い所で結合し、互に相關聲性を有する近代工業の特長をキャッチして一大綜合工業地帯を造り、生産コストを遞減し國富の増進を計ると云ふのである。本計畫の最も難點とされて居る點は、豫定地より外海に至る約15軒余の航路の維持である。これには充分調査研究し、適當な導流堤を築造す

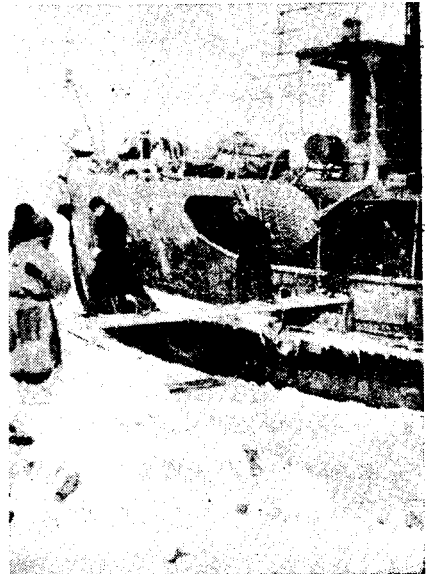
ることにならうと思ふ。河口附近は水深干潮面以下1米位の處もあり且つ變化の甚しい處であるが、それだけに導流堤の位置及工法が適正を得るならば意外に簡單に水深維持が出来るかも知れない。

浚渫、導流堤並に埠頭地域以外の地點の護岸に約1,300萬圓位を要する見込である。埠頭設備は年萬噸の吞吐で、900萬圓位で出来はしないかとの考へである。然し水路並埠頭設備に就ては交通部並に滿鐵の主管事項であるから此の數字は單に我々が當初計畫案を提唱した時に考へたものに過ぎない。5,000萬平米の土地は滿洲國都邑計畫事業の方針に従ひ、省地方費の起債に依り500萬圓位で全部買ひ上げる豫定である。これに道路、下水其他の都市設備を施して工業地帯に1,200萬平米を割き、残りを公共地域、住居地域、商業地域等に充て、買却、貸付に依り總事業費4,500萬圓位を生み出す豫定である。年限は發展情勢に依り變化するであらうが、先づ5箇年位を目標にし10箇年位で完成するのではなからうかと考へて居る。工業用水は安東市の北端で鴨綠江に合流して居る流域面積並に流量が日本の最上川に酷似し、せる靉河と云ふ常に清澄な水が流れ居る河があるが、これから當初1日20萬噸取水の計畫である。多少送水管が長くなるが、取水設備が簡單であるから、總工費650萬圓位で纏まる豫定である。これも財源は省地方費の起債に依り1噸3錢位で賣つて15ヶ年で償還出来る見込である。河が大きいから必要次第で水は幾らでも取れる。大連の様に水で苦しむ事は金輪際無いと思ふ。安東から豫定地迄延長35軒の鐵道は、國有鐵道で建設して貰ふ意向である。これで此の計畫を完成するには、凡ゆるものを含めて大體7,000乃至8,000萬圓を要する事になるが、純粹の國費の負担は水路維持の費用のみの見込である。これが當初省より提出された計畫の輪廓であるが、其後本問題の處理が中央に移されたから實際に事業に着手される時はどう變更されるか分らない。然し事業の最終目標は此の邊にあることは間違ひないと思ふ。寧ろ産業開發の情勢次第では更に地域が擴大されるのではなからうかと想像して居る。

## 8. 計畫中央に移る

前項の様な内容の計畫案を樹て、一應別宮次長に披露した處、太いに賛同を得たのみならず種々懇切な指示があつたので、それに依り必要な部分の訂正を行ひ、康德4年3月上旬次長に隨行上京し岸産業部次長並に推名鑛工司長の意見を徴した。これ亦非常なる賛成を得た上に、其の實現に對して極力支援されるとの約束を得たのである。更に交通部に於て平井出次長、直木技監、原口技正に説明し、技術的に成否を伺つた處、成立の見込充分との事で大いに力を得た譯である。其の後交通部に於ては特に三逆浪頭港修築の懸案もあつたので、種々本問題に就ては深く研究された模様である。省では別宮次長自ら本問題に關する限り非常な熱意を持たれ、主腦者會議で極力其の實現を計ることが決定された。越して4月23日には岸産業部次長一行が、5月6日には直木技監、原口技正が松田企畫處長を伴ふて來安各々親しく現地を視察されたが、何れも臨港工業地帯として適地なることを認識されのである。殊に直木技監並原口技正は數日滞在、水陸兩方面より詳さに視察の上、今後の調査方針に關し種々適切なる注意があつた。其の後省に於ては都邑計畫事業の根本となる地價に關し、田中安東縣副縣長の多大の努力に依り或成案を得たので、計畫全體を具體的に取り纏め別宮次長上京の折之を持參して交通部並企畫處に提出し、急速なる實現を希望する處があつた。其の結果8月18日總務廳に於て、星野總務長官臨席の下に開かれた企畫處、主計處、内務局、産業部、交通部、安東省公署等關係者を網羅せる大會議に於て本事業「斷行」の滿洲國の大方針が決定したのである。

其の後は本問題の處理は中央に移つてしまつたのであるが國境河川に於ける港灣問題であり且つ朝鮮に於ては、既に多獅島の築港に着手して居る時であるので、事業の遂行には單に滿洲國のみの意向に依る能はざる種々複雑な事情があり、其の間關東軍、滿鐵、朝鮮總督府との間に接衝並に會議が屢々繰返されたが、今是を詳にする自由を有しない。然し各方面共圓滿なる協調を保ち、問題は順調な推移を辿つて居ることは事實である。此の間にあつて絶えず立案並に連絡に當られた交通部島崎水運科長(現三江省警務廳長)、企畫處高柳參事官、關東軍山崎囑託、交通部橋内技佐並に滿鐵々道總局桑原築港課長、新京支社の人々の盡力に對しては、誠に感謝に堪えないものがある。現地側にあつては10月堀内次長別宮前次長と交迭し、更に益々熱と力を以て本問題の實現化に邁進せられて居るのみならず、現地視察



2月8日午後2時視察團歩板一枚で奉天丸より上陸

の著名の方々には忌憚無き意見を承り、事業實施方針決定の資料として居る。既に産業部大臣、交通部大臣、天津關東局總長、大橋參議、鮎川滿業總裁、丹羽鋤彦博士、木原中將其の他特殊會社方面の



幹部の視察を受け、近く星野總務長官の來安もある豫定である。本年に入つて問題の處理は總べて總務廳企畫委員會に移されたので、愈々近く事業實施の運びに至ることと思ふ。

### 9. 不 凍 港 「大 東 港」

當初計畫案を提唱した時は、本港を不凍港と証明する的確な資料が存在しなかつたので、1 年中 2 箇月は結氷するものと假定し、尙探算を得る見込で計畫を樹てたのである。然るに昨年12月23日交通部で開かれた共同技術委員會に於て決定された交通部、安東省、滿鐵三者共同大東港冬期調査の結果完全に不凍港たる事が証明され更に本港の聲價を高めるに至つたことは誠に欣快に堪えない。即ち調査報告書より最低温度の日を抜粋すれば次の通りである。

月 日	氣 温		水 温	天 候	風 向	風 力	河 面 状 況
	最 高	最 低					
12 23	- 2°	- 7°	- 1°	雪	北 北	1 米	干潮時薄氷局に流る、満潮時なし
// 24	- 7°	- 18°	//	晴	//	//	//
// 25	+ 4°	- 21°	//	//	//	//	//
// 26	- 8°	- 22°	//	//	//	//	流水稍多し、雪狀を呈し軟弱
// 27	+ 2°	- 22°	- 1.5°	//	無 風	0	//
// 28	- 10°	- 24°	//	//	北 北	1 米	//
// 29	- 1°	- 23°	//	//	//	//	満潮時流水多し、干潮時なし
// 30	- 3°	- 18°	//	//	北北東	//	//
2 4	- 2°	- 18°	- 2°	晴	北 北	9.2 米	満潮時雪狀流水少量あり、干潮時なし
// 5	- 4°	- 20°	//	//	北北西	6 米	//
// 6	- 3°	- 18°	//	//	北西西	5.5 米	//
// 7	- 3°	- 20°	//	//	北北西	8.3 米	満潮時雪狀流水全面にあり干潮時なし
// 8	+ 5°	- 14°	//	//	北北東	7 米	//

上表に示されて居る様に2月7、8日と云ふのは氣温が低下した上北風が強く、不凍には最も悪い条件であつたに拘らず、7日の午前の如きは結氷調査の目的を以て來た、滿鐵奉天丸が大東港に差しかつた時には、港内碧色を呈し流水を認めなかつたのである。奉天丸は大東港の結氷調査のため特る滿鐵當局の配慮に依り6日の午後大連を出發したのであるが、當時大連港には厚さ2寸の結氷を見、黃海の沖にも厚さ4寸の氷が張りつめて居た數年來の嚴寒の日であつた。大東港が何故不凍であるかと云ふ問題に就ては、調査の完了を待て詳しい事は研究の上又發表の機會があらうが、干満に依り水の移動が烈しく、氣温の割合に水温が低下せず而も北風に依つて移動して居る流水は常に外海に押し流されて居るからであらうと思ふ。移動して居る流水は、趙氏溝部落の上流5軒位の處にある結氷境界線の處迄満潮時には流され堆積して居るが、干潮2時間後には外海に流出て

しまふ様である。其の後某所より前年及前々年に於ける本地域の不凍を証明する貴重な寫眞が手に入つたので、更に確信を得るに至つた。軟弱な多少の流水が船の進行に何等支障なき等は各種條件最悪の日に奉天丸が自由に行動出来たことに依り完全に証明されて居る。兎に角從來凍港と信ぜられて居た大東港が、立派な不凍港であると判明したことは唯だ單に本港の將來を光輝あるものにするのみならず、他に其の領土内に完全な不凍港を一つも有しない我が滿洲國にとつても實に慶賀に堪えない處である。

### 10. 本港と大連港及多獅島港との關係

本港と大連港との關係に就ては、去る2月1日の滿日經濟欄に載せられた論説『注目し値する趙氏溝の將來』を引用すれば足りると思ふ。「過日の嚴寒に大連港内も約2寸の堅氷に蔽はれ、木造船の進航を阻まれた折柄、安東趙氏溝調査團は氷を見ぬ同豫定地を詳細に調査し不凍港趙氏溝に折紙をつけた。而も滿潮時とは云へ3,000噸級に比敵する奉天丸は河岸にビタリと横づけされた」と傳へられることは、將來の趙

語る有力な資料であ  
趙氏溝の持つ條件は  
伴ふ低廉な電力と豊  
道に結ぶ鐵道の敷設  
海工業地帯として趙  
のそれに劣らぬ有利  
れてゐると云へやう  
洲國の物資輸出入に  
ここに輸入港大連、輸



1月29日午前10時大東港視察團の原口技正 港内は一片の流水も無い青島原

氏溝港の有望性を物  
る——大連港に比し  
鴨綠江の水力發展に  
富な水量、更に東邊  
が豫想される時、臨  
氏溝の將來は大連港  
な幾多の條件に恵ま  
——兩々相俟つて滿  
當るものゝ、自らそ  
出港安東が約束され

るとの一部論者の説を信するなれば、大連臨海工業の爲に全面的に注目し、海港の活用と安東との合理的運營提携に今日から一步進むべきではなからうか、機材に計畫に幾多の尊い資源を持つ大連は大趙氏溝の完成に先づ關心を持ち協力すべきであらう、共に生きる道はこれのみだ、お互に小さい局地に據るべき秋ではあるまい。

大連—大東港間僅かに175哩、大連で荷揚して空になつた船が、大東港に来て船腹を一杯に膨らませて出て行く情景を眺めるのは、必ずしも遠き將來ではあるまいと筆者は堅く信じて居る。

多獅島港との關係に就てはこれ亦共存共榮の立場より運營に於て一元化することに依り、其の摩薩は完全に除去されるのみならず、東邊道並に近來發見されて居る安東省下の天然資源は遠からず兩港の設備の擴張を要求するに至るであらうと附言するのみで他に餘り駄辨を要すまい。

## 11. 結 論

僅か1年足らずにして本問題は斯くの如きスピーデーな躍進を見せ、愈々近く其の落ち着く可き處に落ち着かんとして居るのであるが、今茲に其の辿つて來た道を顧みるならば、問題の進展を斯く迅速ならしめた主因は勿論産業開發黄金時代の波に乗つた幸運もあらうが、産業統制並に事業企畫の見地からの岸次長、推名鑛工司長以下産業部當局の積極的の熱烈なる支援と、技術的觀點に立つての直木技監、原口技正等交通部當局の豊富なる經驗と深遠なる處理に基づく確信に満たる技術上の斷案とが、即ち今日の結果をもたらせる最大の原因であると斷ずるも決て過言であるまいと思ふ。

殊に明治の後半より當時「大東港」の現状に髣髴たるものがあつた東京及大阪の臨海蘆草地に世論も排し敢然築港の大方針を決定、其計畫を樹立し直接間接今日の殷盛を見る素因を造られた光輝ある而も貴重なる體驗を有せらるゝ直木交通部技監の當初よりの斷乎たる所信の披瀝は永遠に「大東港」築港史に銘記さるべきものである。去る2月上旬合同調査班の手に依て行はれた海、陸、空、に依る特別調査の折も技監は自ら大連出港の奉天丸に乗船せられ調査員一同と行を共にせられたが、折柄氣温は零下20度を示し北々の烈風吹きすさぶ當地方稀に見る極寒の日であつたにかゝらず、航海中は甲板上に、船が「大東港」入港後は凍結せる積雪上に或ひは天翔くる機上に肌衝く寒風を冒して現場を長時間に亘つて丹念に視察せられたのである。其の折此の我が土木學界の耆宿たる老博士の姿を眺め自ら頭の下るのを覺えた者は唯に筆者のみではなかつたやうである。

他からの視察者中にも随分有益なアドバイスをされた人も多く、就中北支視察の歸途態々立寄られた丹羽博士、木原將軍、の大膽にして含蓄に富む示唆は我々現地にある者の信念を益々堅からしめるものがあつた。

問題の進展に従ひ關係の範圍が益々擴大せられたが、是等關係者一同の熱心なる好意ある援助に對しては誠に忘れ難きものがあるのみならず、特に本港の出現に將來重大なる關係を有せらるゝ朝鮮總督府並に滿鐵當局の極めて協調的な態度には衷心感謝に堪えないものがある

尙本問題の最後の決定を早めた重要な一因は更に他にあるのであるが、これは昨年(康德5年)9月7日新京に於て、同11月25、26、27日安東に於て行はれた軍、滿洲國、朝鮮總督府、及滿鐵四者の主腦者が一堂に會して議せられた國際會議の内容と共に今日茲に述べる自由を有しないのを遺憾とする。要するに問題は此處まで到達した上に更に滿洲國領土内に於ける唯一の不凍港たることが確認された現在「大東港」綜合工業地帯の持つ將來は誠



3月21日 星野總務長官趙氏滿水上陸  
 觀察屋上より大東港の説明を聞く

に洋々たるものである。

其の將來の發展性に對する見透しに就ては各方面から種々考究されて居るやうであるが、今假りに近代工場立地の基準條件たる使用電力量より之を論ずるならば、北九州工業地帯に於ける使用電力量20萬キロ、工業用地600萬平米。年生産額3億7000萬圓、數より推して經濟的送電圏内にあり而も其竣工及建現實的に略豫水豊、同義州並に渾江を利其總出力120萬キロより優を期待せらる、此地に工業額15億萬圓を推定すること語るものに非ずと信ずる。地帯に比し原料、勞力、用の地歩を占もることに想到ものがあらう。



1月26日午後1時大東港視察の交通部大臣一行前方は調査橋

茲に滿洲國都邑計畫事業の此地の發展を豫想するな現安東市より延々として鴨綜合工業地帯が形成せられ、る大都市の出現を想像する

定せられて居る鴨綠江水力する桓仁の發電所完成の曉に50萬キロ以上の電力供給用地1,200萬平米、年生産は必ずしも荒唐無稽の夢を而も上掲の代表的綜合工業水及用地に於て遙かに有利せば蓋し想ひ半ばに過ぐる

立案の法則に従ひ、30年後らば其附屬人口50萬を越え絲江下流沿岸に連る近代的其處に總人口100萬を擁すこはさまで困難なことでは

然かるのみならず筆者は戰塵おさまり、東亞新秩序の建設成るの日、MADE IN MANCHUCUOの商標を貼られた船貨を満載せる數多の大船巨船が此處を基地として、既に潮水化せる黃海を渡り萬里の波濤を蹴て世界の隅々に通ふ雄姿を夢見て居るものである。(康德5、2、2))

「註」時局柄數字は出来る限り省略し又推定し數を使用せるに付其點御諒承を願ひたい。

大東港讚歌會

時代の寵兒となつた大東港ならびにその附近の湯池子(溫泉)の開發につき十五日協和會館で下相談が催された會するもの堀内次長(滿良)多田市長(綠泉)田中副縣長(九牛)黒田省土木科長高橋鴨綠江水電理事(康順)藤飯滿洲輕金屬理事の諸氏で終了後高橋藤飯兩理事のため歡迎會を料亭由良之助で開き興にのつて大東港を詠じたのが左の句であつた

春雨にぬれて嬉しき大東港 (滿良)

葦の芽や初めてぬる、春の雨 (綠泉)

春霞二國うらゝに大東港 (黒田)

雪とけて跡見えずなり猫の戀 (康順)

大東港この海延びて南支那 (藤飯)

大東港麗に明けて槌の音 (九牛)

# 鴨綠江口附近略圖 縮尺三十萬分一

